

参加者満足度100%！組織の『決められない』を打破する。  
研修ワーク中の「対話」を読み解く、現場実測型・組織分析レポート

# 組織の「レジリエンス」体力測定 事例レポート

—強みの地層を確かめ、  
進化の「兆し」を読み解く—

Case Study: 専門対人サービス・店舗運営 A社様2026.1~2月実施  
2026/3/24発行

## EXECUTIVE SUMMARY：全体の要約

### OVERVIEW

「なぜ、あの場面で沈黙が起きたのか」「なぜ、決断に迷いが生じたのか」——。その正体は、個人の能力不足ではなく、組織が大切にしている「誠実さ」や「プロ意識」が、有事の混乱と衝突して生じた構造的な摩擦です。

### KEY INSIGHTS

盤石な強み（主流派）が時に「ブレーキ」として作用する瞬間を可視化。そこに、次なるレジリエンスを獲得するための「進化の種」が眠っています。

## ANALYSIS METHOD：分析の手法と視点

本レポートは、2回に亘る災害シミュレーション・ワーク中の逐語記録（発言データ）を、社会心理学の世界的指標であるホフステードの「6次元モデル」を応用し、多角的に分析したものです。表面的なスキルの有無ではなく、組織の深層にある「価値観の優先順位」を可視化。主流派の影に隠れた「葛藤」を特定することで、レジリエンス（適応力）向上のための具体的な「新しいスイッチ」を導き出しています。

## PARTICIPANT DATA：参加者の反応（N=7）

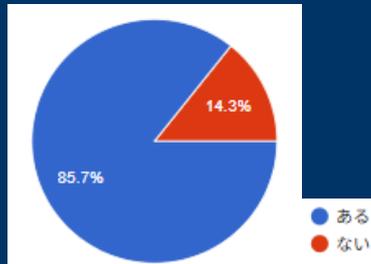
研修満足度

85.7%（期待以上）



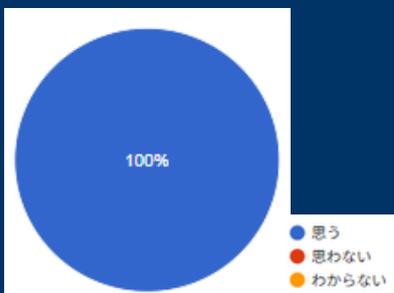
チームでの関わり方に変化はありそうか

85.7%



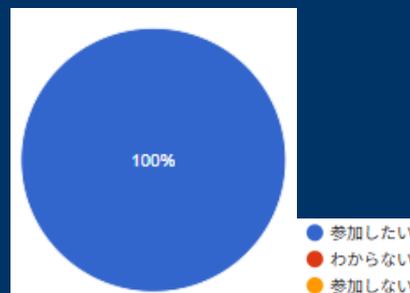
他の人にも紹介したいか

100%



今後も参加したいか

100%

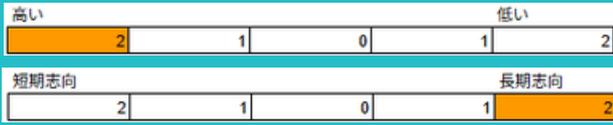


※ホフステードの6次元モデルとは※オランダの社会心理学者ヘールト・ホフステードが開発した、国ごとの文化や価値観の違いを6つの指標で数値化・比較するフレームワークです。国際経営、組織開発、人材育成などにおいて、異文化間でのコミュニケーションやマネジメントのヒントとして活用されています。

## CORE ANALYSIS：組織の深層分析

6つの評価軸のうち、A社様の組織文化において特に顕著な相関が見られた「4つの軸」を抽出。強みとして一貫性がある軸と、強みの裏側に潜む、適応への葛藤（スプリット）を解説します。

### 1. 盤石な基盤：不確実性の回避『極めて高い』／短期⇄長期志向『極めて長期志向』

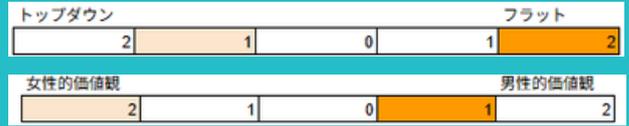


目先の利己的な行動に走らず、常に「他者への配慮」や「未来の信頼」を重んじる姿勢は、貴社のブランド

※全6項目の詳細な組織相関分析は、フルレポートにて解説しています※

での徹底した姿勢は、日々のサービス品質を支える盤石な基盤です。

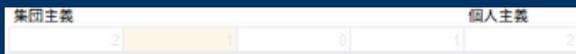
### 2. 停滞の正体：スプリット（SPLIT）に見る「新しいスイッチ」の予兆



一方で、有事の極限状態においては、これら盤石な強み（主流派）が「ブレーキ」として作用し、場がフリ

います。

### 3. その他の評価軸



## FIELD OBSERVATION：現場の変容と兆し

### BEHAVIOR（現場で起きた現象）

「世界中の人が少数派になる場面を経験すれば、配慮の気持ちが生える」という参加者の切実な願いに対し、講師が放った「みんな、体験しているんだけどね……」という一石。

### BENCHMARKING（変化の予兆）

この一言に「ハッとした」瞬間から、日常では瞬間的に過ぎ去ってしまう微細な違和感や「少数派の気持ち」に目が向き始めました。

### NEXT ACTION（体質改善の種）

「沈黙もまた貢献である」という信頼のもと、完璧な正解を求めるのをやめ、70%の共鳴を許容する「組織のあそび」を練習すること。

## FINAL EVALUATION：総評 —レジリエンス進化への「羅針盤」

「完璧な正解」が組織の沈黙を生んでいるのであれば、いま必要なのは、70%の共鳴を許容する『組織のあそび』です。今回の測定で見たのは、高い誠実さゆえの葛藤でした。誰か一人のリーダーが全てを背負うのではなく、その瞬間に気づいた人がタクトを握り、周りがそれを支える。そんな『流動的なリーダーシップ』へのシフトが、A社様の持つ盤石な地肩を、真の適応力（レジリエンス）へと変えていくはず。沈黙は、拒絶ではありません。次なる対話への「準備」です。

発行元：一般社団法人Nurture & Mature

<https://nurture-and-mature.com/>



お問い合わせ



代表理事:飯沼 美絵

このプログラム&レポートが、皆様の組織やチームの強みを再確認し、更なるレジリエンス（適応力）を高めるための、組織開発の「カルテ」として活用されることを願っております。お気軽にお問い合わせください！

